

令和4年度 大阪府立伯太高等学校運営協議会 第3回議事録

令和5年2月25日（土）10:00～12:00

記録：中村

協議会委員参加者

鎌田 聖子 (令和4年度PTA会長)
田中 恒子 (地域教育相談員)
山野 正広 (和泉市総務部 人権・男女参画室長)
原田 尚史 (和泉市立和泉中学校長)
西田 芳正 (大阪公立大学教授)

学校教職員参加者

大崎 弘司 (校長)
北出 眞理 (教頭)
津田 等 (事務長)
小川 敏和 (首席・進路指導部長)
中村 友香 (首席)

- (1) 会長挨拶
- (2) 校長挨拶
- (3) 令和4年度 学校経営計画の評価～令和4年度 学校教育自己診断の分析と評価を踏まえて～
 - ①令和4年度 学校教育自己診断の分析と評価
 - ②令和4年度 学校経営計画の評価
- (4) 令和5年度 学校経営計画の概要
- (5) 本年度の進路指導について
- (6) 意見交換
- (7) 校長謝辞

[主な報告、質問、意見等] ◇は報告内容、○は質問、→は答え、●は意見や感想

令和4年度 学校教育自己診断 (首席より)

- ◇全体を通して“よくあてはまる”がやや減少し、“ややあてはまる”が微増している。
- “授業の中でタブレット端末等を活用する機会がある”について、1年生の数値が低いのはなぜか。
→2・3年生は各教室に専用ボックスがあり、恒常時に充電できるが、1年生の教室には充電設備がなく、持ち帰らせると持ってこない。現在対策を講じているところ。
- ◇生徒指導面において肯定的な数値が低めになっており、記述から見ても教職員と生徒との認識の違いがみられる。
- ◇キャリア教育については、外部・卒業生の講話を増やしたところを継続している。
- ◇教育相談に関する項目では肯定率が微増しており、相談できる場所を見つけてくれていると考える。
- ◇学校行事の項目では、規制も緩和されてきていることもあり新型コロナウイルス感染症の流行以前の数値に戻ってきているように思う。
- ◇“自分の学級は楽しい”の項目は昨年度に比べ増加しているが、その増加が“学校が楽しい”には繋がっていない。

令和4年度 学校経営計画の評価 (校長より)

「確かな学力」の育成について

- ◇1年生の評価方法が観点別評価になったこともあり、生徒と教員の関わる機会が多くなった。
- ◇“総合学科の学習を通してプレゼンテーション能力が身についた”の項目が昨年度と比較すると“よくあてはまる”が減少し、“あまりあてはまらない”が増加している。
 - chromebookを使用しプレゼンテーションなどを行ったが、作品感が少なく達成感が弱かったように思う。
 - 紙ベースで作成するほうが、成果物が残る分達成感が大きいのではないか。

将来の目標に向かって努力する生徒の育成

- ◇キャリア教育に対しては相当の時間を割いているが、10%ほどが否定的な回答をしている。
 - 否定的な回答の割合と進路未定の割合が数的には一致。今後否定的にとらえている生徒の把握と分析が必要。未定者減につなげたい。

安全安心で魅力ある学校づくり

- ◇学校行事に対する満足度の数値としては、新型コロナウイルス感染症の流行前の数値に近いところまで戻ってきている。
- ◇人権学習について肯定的な回答が増えてきており、次年度も教材を検討しつつ継続していく。

教職員の育成等

- ◇教職経験年数が10年までの教員を学校組織中核となっていけるよう、継続していく。

令和5年度 学校経営計画及び学校評価について (校長より)

「確かな学力」の育成について

◇キャリア教育における外部の講話を活かして、話を聞きながらメモをとることにこだわりたい。

将来の目標に向かって努力する生徒の育成

◇昨年度、2学期から急激に遅刻数が増えてきた。

●今年度は祭礼が多く地域の地域で実施できていたことも要因と考えられる。

○遅刻指導は登校した時間でも指導の内容は分けられているのですか？

→時間の差では変わらず、回数で指導の段階をおっている。

●○“課題をやれば終わる”という考えの生徒が多いので、指導のあり方を考えなくてはならない。

→教職員がしっかり生徒本人と話ができる時間を持てるような指導内容に移行予定。

教職員の育成等

◇教職員研修について、内容を大きく改変していく。具体的には教職員による企業の職場研修など。

教育現場以外の人と関わることで、生徒の育成や生徒との様々な関わり方について考えさせたい。

●企業だけでなく施設や飲食店などでも良い学びがあると思います。

●生徒と関わる中で、悪いことを指導することはもちろん大切だが、良いことを褒める機会を増やす。

●企業などを訪問しての研修は良いと思います。若手の職員の中には、どうしても指示をまったりわからないところで長時間滞ることが多く見られるので、生徒との関わりだけでなく、経験の浅い教職員の育成にもつながると考える。

●○中学校では、時折罵声聞こえてきたり、中傷的な扱いを生徒がされていたりすると外部の方から聞くことがあります。そういったことから、第三者が学校に来校し、振る舞いを気付かせる機会を与えることが必要ではないだろうか。

→現在キャリア教育の一環で、企業や大学・短大・専門学校等多くの方に来校していただき講演を行っていただいています。その選定に関しては慎重に行っている。

→外部の方を招くことで、リスクがないわけではないので、訪問させていただく企業の選定も慎重にしていきたい。

本年度の進路指導について (進路指導部長より)

◇進学・・・理数系の学校を受験する生徒が少し増えている。

指定校推薦で受験する生徒は減少傾向にある。

自分に合う受験のシステムで受験をする生徒が増えた。

全体的に専門学校の受験者が減少している。

→“働く”まで考えが行きついておらず、目的意識があいまいになっている。

◇就職・・・今年度は複数応募が認められ、本校生徒も1名複数応募。複数での受験を選択の理由としては、1社だけだと不合格だったときにという不安の緩和のため。

◇今後の傾向 観点別に対応した入試制度については各校種まだまだ検討中。

◇キャリア教育に関しては、学校教育自己診断の数値にも出ているよう、進路を考えるにあたり参考になったという回答が増えてきているので、継続していきたい。

○理美容系の専門学校卒業後はしっかり就職に繋がっているのでしょうか？

→就職口は多いように聞けるが、継続していくことが困難なよう。現場に美容師として立てるまでの時間がかかるという点が継続していくための大きな壁になっているようだ。